

4 カメムシ類による斑点米の発生防止

1 カメムシの発生・増殖しにくい環境づくり

- 麦跡田では、大豆、園芸作物、緑肥等の栽培で、雑草の繁茂を抑制
- 畦畔等の雑草地は、**イネ科雑草の穂が出る前までに草刈り**を実施

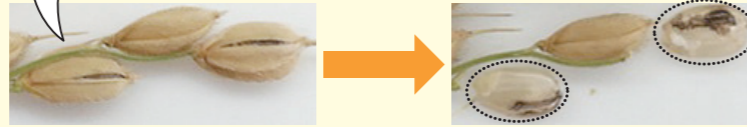


アカヒゲホソノドリカスミカメ (体長5~6mm) アカスジカスミカメ (体長4.6~6mm)

2 割削の発生軽減

- ケイ酸質資材の施用
- 適正な栽培管理による適正籾数の確保

元年産では、割削が多く発生



籾が割れると、カメムシが米を吸汁しやすくなる

3 適正な防除の実施

- **防除効果の高い薬剤**を使用
- 早生品種は、**穂揃期と傾穂期の2回防除**を徹底(防除後もカメムシが多い場合は追加防除)

近年、山際を中心に大型のカメムシ(15~17mm程度)が発生しています。追加防除など対策の徹底を!



フモヘリカメムシ (体長15~17mm)

生産者の皆さまへ(お知らせ) ~令和2年産からの変更点~

1 「コシヒカリ」用肥効調節型肥料はLPコートから崩壊性を高めたJコートに替わります

【対象品】

移植コシヒカリ用の「LPssコシヒカリ1号」、「LPssコシヒカリ2号」他

→「Jコートコシヒカリ1号」、「Jコートコシヒカリ2号」他

- **肥培管理は、これまでどおり行ってください。**

※詳しい施肥設計等は、各地域の営農情報等をご参考ください。



2 「てんたかく」が新品種「てんたかく81」に切り替わります

- 「てんたかく81」は、てんたかくに比べ、①出穂期や収穫期が2~3日早く、②収量性が高い(粒の充実が良く、くず米が少ない)品種です。

- 「てんたかく」に比べ、**出穂期や収穫期が早いことに留意し、適期防除や適期収穫を行ってください。**

※詳しい施肥設計等は、各地域の営農情報等をご参考ください。

※収穫物は、検査・流通において「てんたかく」として扱われます。

3 大豆品種「エンレイ」が「えんれいのそら」に切り替わります

- 「えんれいのそら」は、エンレイに比べ、莢がはじけにくく、収穫ロスが少ない品種です。
- 難裂莢性ですが、**刈り遅れると品質が低下するので、エンレイと同様に、ほとんどの莢が褐色になった頃(子実水分22%以下)を目安に刈り取りを開始してください。**

※収穫物は、検査・流通において「エンレイ」として扱われます。

高品質でおいしい
富山米を食卓へ

「ほおばる幸せ。富山米」



令和元年産は、出穂後の猛暑など厳しい気象条件の中、うるち玄米の1等比率は85%となりました。令和2年産は、1等比率90%以上を目指して技術対策の徹底をお願いします!

技術対策の4本柱

- 1 5月15日中心の田植えの確実な実施
- 2 適正穂数の確保と過剰な籾数の防止
- 3 こまやかな水管理・施肥による稲体活力の維持
- 4 カメムシ類による斑点米の発生防止

「元気な富山米ブランド」確立のための重点技術対策

～めざせ! 1等比率90%以上～

1 5月15日中心の田植えの確実な実施

1 コシヒカリの田植えは5月15日を中心に!

- 出穂後の高温を避けるため、田植えは5月15日を中心に実施

田植え日と出穂期及び登熟期間の気温

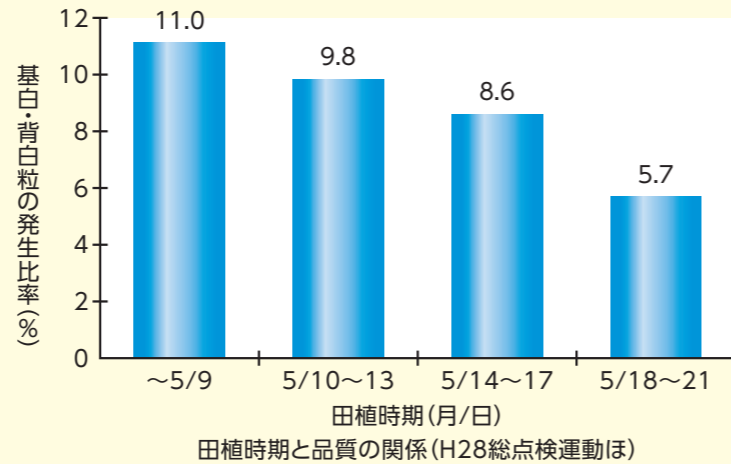
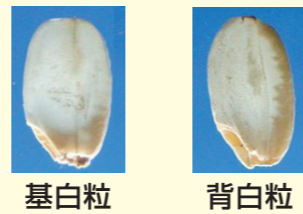
田植え日 (月/日)	出穂期 (月/日)	出穂後20日間の平均気温(℃)
5/5	7/29	28.1
5/10	8/1	28.0
5/15	8/4	27.8
5/20	8/7	27.3

※出穂期及び気温は近年値(H22～R元)を用いた



出穂後の高温を回避すれば、**基白・背白粒の発生が減少!**

出穂後の高温で発生する未熟粒



2 田植時期に合わせた播種・育苗を!

- 苗の活力を維持するため、**播種は、あわてずに4月25日頃**に実施
- 4月下旬以降は気温が上昇し、苗が長くなりやすいので、**搬出直後からの積極的な換気**

育苗計画の目安

浸種日	播種日	田植日	育苗日数	出穂期
4/8頃	4/19頃	5/10	21日	8/1頃
4/16頃	4/25頃	5/15	20日	8/4頃
4/24頃	5/2頃	5/20	18日	8/7頃

播種日～田植日は20日間以内

育苗期間中の温度管理の目安

苗のステージ	出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数	3日	2～3日	13～15日
温度 昼	30℃	25℃以下	
温度 夜	30℃	10℃以上	



2 適正穂数の確保と過剰な籾数の防止

1 初期茎数の確保を!

- **栽植密度70株、植付本数3～4本、植付深さ3cmの徹底**
- 土壌に応じた基肥窒素の施用
砂壤土3.0～4.0kg/10a
埴壤土1.8～2.6kg/10a

2 溝掘り・中干しの徹底を!

- **中干しは田植後1か月までに確実に開始**
- 6月上旬の**溝掘りの実施**

植付深さ3cmで充実した分けつを確保



植付深さによる分けつ発生の違い

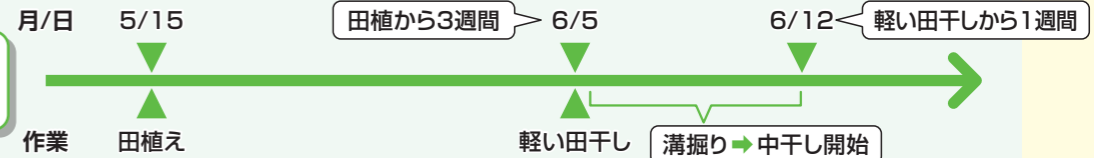
中干しで根っこいきいき!

管理機で効率的な溝掘りを実施



乗用管理機による溝掘り作業 中干しによる根の違い

溝掘りおよび中干し実施のイメージ

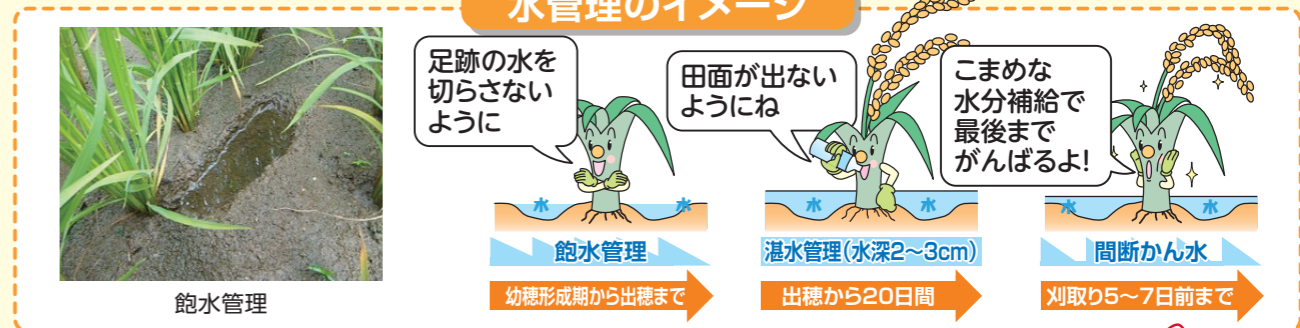


3 こまやかな水管理・施肥による稲体活力の維持

1 こまめな水管理を!

- 幼穂形成期以降は**飽水管理**、出穂後20日間は**湛水管理**
- 刈取り5～7日前までは**間断かん水**

水管理のイメージ



2 的確な穂肥施用を!

- **穂揃期の葉色を4.2～4.5 (砂壤土は4.5) に誘導**
- 肥効調節型基肥栽培でも、葉色が薄い場合は**追加穂肥を施用**

葉色が淡いと、体力切れでフラフラだ～

